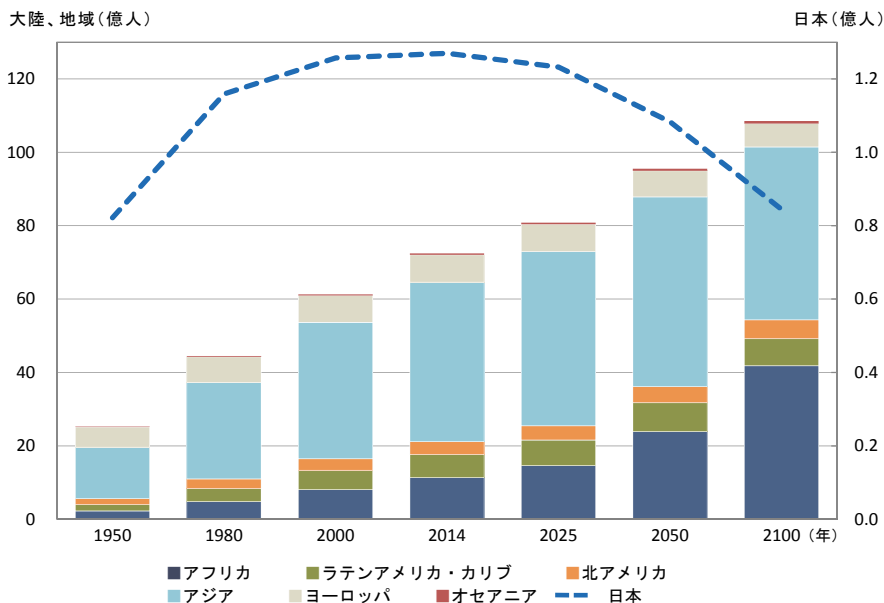


2-1 世界、大陸及び主要地域の人口（中位推計）



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第2-1表 総人口」(p.55)を参照。

20世紀初頭に約15億人であった世界人口は、1950年以降飛躍的に増加し、1974年以降は増加率が低下したものの、2000年には61億人に達し、2011年後半に70億人を越えた。

国連が隔年ベースで公表する『世界人口予測』の2012年改訂版(本書の資料出所)によると、2013年半ばに72億人であった世界人口は、中位推計で2025年に81億人、2050年に96億人に増加し、2100年には109億人に達する見通しである。

人口増加の大半は発展途上地域で発生し、2013年の59億人から2050年には82億人に増加し、2100年には96億人に達すると予測されている。これは主に15～59歳(16億人)及び60歳以上(19.9億人)の人口増加によるもので、15歳以下の人口はほとんど増えない。同じ期間の先進地域の人口は、2013年は12.5億人、2100年は12.8億人とほぼ同水準で推移する。しかし、発展途上地域から先進地域への移民規模が、予測されている2013～2050年は年平均240万人、2050～2100年は年平均100万人の水準を下回れば、さらに減少する見通しである。

2013～2050年間の人口増加は、主にアフリカの出生率の高い国々に加えて、インド、インドネシア、パキスタン、フィリピン及びアメリカなどの人口規模の大きい国に集中している。